

農経新聞

株式会社 農経新聞社

〒141-0031
東京都品川区西五反田
1-27-6 市原ビル9FTEL03-3491-0360
<http://www.nokei.jp/>

倉敷青果荷受組合

新カット工場が完成

年間処理量は約2千トン

カット野菜製造で伸長している青果卸の倉敷青果荷受組合（「クラカ」、富本尚作理事長、岡山県倉敷市）では、新たなカット工場（農産物処理加工施設）が完成した。鉄骨2階建て、延床面積1325平方メートル、年間処理量は1920トン、総工費は3億8千万円。岡山県産の原料野菜をさらに活用し、地産地消型のカット野菜を製造する。



新工場の完成でさらにカット野菜製造能力を増強

クラカでは昨年度の取扱高130億円のうち、カット野菜製造は43億円（前年比115%）に上っており、年々需要は増加。昨年2月には3億5千万円をかけて「集出荷貯蔵施設」を新築するなど、設備投資を進めてきた。しかし既存施設では将来的に対応が難しくなるため、新工場を建設した。

新工場は、今年度の農水省「強い農業づくり交付金事業」を活用したものの、事業主体はクラカが中心となり、生産者（6団体・生産者15人、中間事業者（クラカ）、食品製造業者（実需者）で15年10月に設立した「岡山県

産野菜生産・利用拡大協議会」。協議会では水田転作、遊休農地の活用により、県内で2018年度にカット野菜用の原料野菜である加工用キャベツを1千トン、さらに19年度には加工用キャベツ、青ネギ、レタス合計で1千トンを目標準産量としている。

同協議会では、加工・業務用野菜の生産・利用拡大を目標に、トレーサビリティ、GAP手法導入に向けての勉強会、栽培技術講習、新品種適応実証試験、産地現地調査等を実施。協議会への参加により生産者は、高品質な野菜生産、単位収量の向上、出荷規格の簡素

化による出荷調整作業の軽減、機械化による栽培面積の拡大等が可能に。さらに収入面でもクラカとの契約取引により、所得向上を図り、安定的な農業経営をすることができると見られる。

また、同協議会の設立

に合わせて、グループ会社の農地所有適格法人（農業生産法人）「クラカアグリ株式会社」を設立し、自社生産も開始している。今年2月時点の栽培面積はすでに8畧に達しており、19年には15畧を目標。19年度の生産目

標は露地キャベツ365トン、青ネギ125トン、レタス75トンの合計565トン。若い人材の受入れや研修を積極的に行い、地域の農業従事者の育成にも力を入れていく。